

2021年1月30日

年間第4主日

菊地功大司教 メッセージ

インターネットが普及した現代社会で、わたしたちはあふれかえる言葉の中で生きています。感染症対策のために直接出会う機会が減少しているとは言え、インターネットで直接語り合うにしても、文字でコミュニケーションを図るにしても、多種多様な手段を提供しています。

毎日浪費されるようにあふれかえる言葉には、心の叫びの言葉もあれば、何気なく発信される薄っぺらな言葉もあります。真実を語る言葉もあれば、でたらめな言葉もあります。いのちを生かす言葉もあれば、いのちを奪う言葉もあります。希望を生み出す言葉もあれば、闇に引きずり込む言葉もあります。言葉は、それが前向きであろうと後ろ向きであろうと、ひとたび発信されてしまうと、他者に対してなんらかの影響を及ぼす力を秘めています。

2018年の世界広報の日メッセージでしたが、教皇フランシスコはフェイクニュースのもたらす影響について指摘をされました。その中で、「フェイクニュースは、不寛容で過敏な姿勢の表れであり、それによって広まるのは傲慢さと憎しみだけです。これこそが嘘が最終的に行き着く先です」と述べ、さまざまな局面で顔を覗かせるフェイクニュースの危険性に警鐘を鳴らされました。

わたしたちが社会全体に対して広く自由に発信をする手段を持たなかったかつての時代にあっても、いわゆる「うわさ話」が社会生活に大きな影響を及ぼしたり、命に関わる結果を生み出した事例がありました。今や誰でもいつでも、世界中に対して自らの言葉を発信できる時代となり、時に、何気なく発信した言葉ですら、後ろ向きな結果を生み出すこともあり得ます。

わたしたちが発する言葉には、わたしたち自身の存在がその背後に隠されています。わたしたちが発する言葉は、わたしたちの存在そのものの反映です。わたしたちが発する

言葉は、わたしたちの心を写す鏡です。

教皇は同じメッセージで、フェイクニュースは、「ソーシャル・メディアの特徴である分かち合いの精神のためではなく、人間の心にいとも簡単にわき上がる、飽くことを知らない欲望に訴えかけ……。その渇きは結局、わたしたちを欺きという何よりも悲惨なもの、すなわち心の自由を盗み取るために嘘から嘘へと渡り歩く悪魔のわざの犠牲者にします」と述べています

イエスの言葉には力がありました。それはイエスこそが、「真理」だからであります。だから人々は「権威ある新しい教え」とイエスの言葉を評したのです。申命記は、神の命じていない言葉を語る預言者は死に値すると、モーセに語らせます。真理を身に帯びていない者の言葉だからです。

わたしたちも力ある言葉を語りたいと思います。自分勝手な思いや欲望を満たす言葉ではなく、いのちを奪う言葉ではなく、闇をもたらす言葉ではなく、裁き排除する言葉ではなく、それよりも神の真理に基づいた言葉、いのちを生かす言葉、希望を生み出す言葉、慈しみに満ちあふれた言葉、いたわり支え合う言葉、すなわち神の力に満ちた言葉を語りたいと思います。

1月の最終主日は、「世界こども助け合いの日」と定められています。「子どもたちが使徒職に目覚め、思いやりのある人間に成長することを願って制定」され、「子どもたちが自分たちの幸せだけでなく世界中の子どもたちの幸せを願い、そのために祈り、犠牲や献金を」ささげる日となっています。あふれる言葉の洪水の中で生きている子どもたちが、神の真理に裏付けされた言葉に触れ、その言葉を心に刻み、語り、実行していきまうように。子どもたちを育む大人が、神の力に満ちた言葉を語り行うことができますように。